

令和2年度第1回山梨県富士山科学研究所課題評価の結果について

山梨県富士山科学研究所では、令和2年8月19日(水)に、当研究所において令和2年度第1回目の課題評価委員会を開催しました。

今回、評価対象になった研究課題は事前評価7件、中間評価1件で、評価結果は、次のとおりです。

1 課題評価委員(別紙1) 委員長 平田 徹

2 評価対象研究課題

令和3年度から研究を開始する研究課題7件に係る事前評価、平成31年度に開始した重点化研究1件に係る中間評価を行いました。

【事前評価 7件】

[富士山研究]

- ① 種分布モデルを基礎とした富士山の自然環境モニタリングシステムの開発(R3～R5)
- ② 富士山麓と周辺山地におけるニホンカモシカの保全生態学的研究(R3～R5)
- ③ 保全メッセージが人の意識に及ぼす影響に関する研究:富士山での外来植物防除策を事例に(R3～R5)
- ④ 富士山における歴史史料と火山噴出物の照合による噴火実態の解明(R3～R5)

[基盤研究]

- ⑤ 富士北麓におけるコウモリ類のねぐら生態および採食生態(R3～R5)

[特別研究]

- ⑥ 河口湖の水質浄化のための基礎的研究(R3～R6)

[成長戦略研究]

- ⑦ 富士山の災害対応に資する管理者向け情報共有プラットフォームの整備(R3～R5)

【中間評価 1件】

[重点化研究]

- ⑧ 富士火山北東麓における噴火履歴の解明—湖底堆積物を使ったテフラ層序の高精度化(H31～R3)

3 研究課題に対する評価結果

(1) 新規課題7課題に対する総合評価点(5段階評価)は、3.3～3.9(平均3.6)で、全ての研究課題について、「妥当」との評価結果でした(別紙2)。

(2) 重点化研究・中間評価1課題に対する総合評価点(5段階評価)は3.8で、「妥当」との評価結果でした(別紙2)。

〈 5段階評価 〉

- 5:非常に優れている。
- 4:優れている。
- 3:良好・適切である。
- 2:やや劣っている。
- 1:劣っている。

(別紙1)

山梨県富士山科学研究所課題評価委員会委員名簿

(任期:令和2年8月1日～令和4年7月31日)

職	氏名	所属・役職	専攻分野
委員長	平田 徹	山梨大学 名誉教授	生態学 環境学
副委員長	石原 和弘	京都大学 名誉教授	火山物理学
委員	大山 勲	山梨大学大学院教授・地域未来 創造センター副センター長	地域・都市計画学
委員	松本 英昭	環境省自然環境局 生物多様性センター センター長	環境行政 植物生態学
委員	田中 将志	健康科学大学 理学療法学科 准教授	代謝免疫学 生理学 分子遺伝学
委員	森口 祐一	国立研究開発法人 国立環境研究所 理事	環境システム学 都市環境工学

別紙2 令和2年度 第1回 富士山科学研究所課題評価委員会 評価対象研究課題

日時：令和2年8月19日（水）午後1時～

場所：富士山科学研究所 1階ホール

評価区分	研究種目	課 題 名	期 間	評価点
事前 評価	富士山研究	1 種分布モデルを基礎とした富士山の自然環境モニタリングシステムの開発	R3 ～ R5	3.9
		2 富士山麓と周辺山地におけるニホンカモシカの保全生態学的研究	R3 ～ R5	3.5
		3 保全メッセージが人の意識に及ぼす影響に関する研究：富士山での外来植物防除策を事例に	R3 ～ R5	3.3
		4 富士山における歴史史料と火山噴出物の照合による噴火実態の解明	R3 ～ R5	3.7
	基盤研究	5 富士北麓におけるコウモリ類のねぐら生態および採食生態	R3 ～ R5	3.3
	特別研究	6 河口湖の水質浄化のための基礎的研究	R3 ～ R6	3.8
	成長戦略研究	7 富士山の災害対応に資する管理者向け情報共有プラットフォームの整備	R3 ～ R5	3.7
	中間評価	重点化研究	8 富士火山北東麓における噴火履歴の解明－湖底堆積物を使ったテフラ層序の高精度化	H31 ～ R3